

第19回 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム幹事会 議事概要

■日時: 令和6年4月17日(水) 17:00～18:00@Teams

■参加者:

<幹事団体>

別紙「参加団体一覧」参照(赤字は当日の変更箇所)

<事務局>

大西 連	内閣府孤独・孤立対策推進室 参与
江浪 武志	内閣府孤独・孤立対策推進室 室長
松木 秀彰	内閣府孤独・孤立対策推進室 参事官
土屋 皓嗣	内閣府孤独・孤立対策推進室 企画官
堀江 典宏	内閣府孤独・孤立対策推進室 企画官
松本 憲司	内閣府孤独・孤立対策推進室 参事官補佐
青野 恵里子	内閣府孤独・孤立対策推進室 参事官補佐
荒川 裕美	内閣府孤独・孤立対策推進室 参事官補佐
岡村 布美	内閣府孤独・孤立対策推進室 参事官補佐
山村 吾郎	内閣府孤独・孤立対策推進室 主査
松川 侑生	内閣府孤独・孤立対策推進室 主査付
玉田 瞳	内閣府孤独・孤立対策推進室 主査付
神門 優行	内閣府孤独・孤立対策推進室 主査付

前田 絵麻	一般社団法人RCF
吉田 翔太	一般社団法人RCF 他1名

(以下、敬称略)

■意見交換要旨

1. 開会

・内閣府 荒川) 今年度の開催方法についてご説明。今年度は幹事団体の皆様から意見をいただき、ディスカッションベースでの実施を検討している。またオンライン会議ツールはTeamsとさせていただきます。

2. 新年度異動等による挨拶

(1) 江浪室長 ご挨拶

・江浪室長) 官民で水平的な連携を目指す点は前室長からも聞いており、引き続き連携を大切にしたい、ご協力をお願いしたい。

(2) 孤独室着任者 ご挨拶

・内閣府 土屋) 4月に着任。3月末までは農林水産省に所属しており、孤独・孤立対策は初めての分野だが、しっかりと学びながら取り組みたい。

・内閣府 堀江)4月に着任。様々な総括的な業務を担当する予定。3月末までは内閣府大臣官房総務課に所属。このような社会政策に携わるのは初めてであり、役に立てるように全力を尽くしたい。

・内閣府 玉田)4月に着任。総務省から異動。メールマガジンの運用担当をする予定。

(3) 調査研究事業受託者(事務局)ご挨拶

・RCF 吉田)今年度もRCFが事務局を担当させていただく。

3. 報告事項

(1) 分科会等

□分科会1(R5「つながりサポーター」養成の検討結果、4/17 担当幹事会)

・あなたのいばしょ 大空)資料1に基づき説明。令和5年度は5箇所で行い、アンケートには様々なご意見をいただいた。令和6年度の本格実施を通じたつながりサポーター養成講座の全国展開に向けて、アンケート結果を踏まえて様々な工夫をしていく必要がある。また、今後はこども版のテキストについても、対象年齢の設定や書きぶり/表現等の検討を進めていく。本日、分科会1担当幹事会が開催され、本格実施にむけて予算やスケジュール等について議論した。今後も本格実施に向けて議論を進めていく。

□分科会2(3/25 担当幹事会)

・全国社会福祉協議会 高橋)資料2に基づき説明。

□分科会3(4月担当幹事会及び令和6年度の実施予定について)

・社会的包摂サポートセンター 遠藤)資料3に基づき説明。4月19日(金)に担当幹事会を開催予定。今回は新しい取組がいくつかあり、電話相談の他にメタバース相談の実施も考えている。新しい試みとしてどのようにできるのか、期待をしていただけたらと考えている。当日追加資料「分科会3:孤独孤立幹事会説明資料0417」について、5月の孤独・孤立相談ダイヤルでは15団体、105拠点で実施する予定。年末年始の試行時に比べて1団体減ったが、拠点に関しては35拠点増えており広がりを感じている。

→あなたのいばしょ 大空)メタバースについて、チャット相談という文言が見受けられるが、既存の相談窓口やSNS相談を行っている実施団体が担うということか。

→社会的包摂サポートセンター 遠藤)チャットではなく音声を中心に考えており、チャットも選べるという建付けとしている。

→あなたのいばしょ 大空)音声相談がメインという建付けであると理解した。もしチャット相談窓口が参画したほうが良い、既存団体に相談したほうが良い等、様々な知見等の共有が必要であれば、ご共有いただければコンソーシアムの方でも検討ができると考えている。

(2) その他

□孤独・孤立対策に資する官民・民民連携による特色ある取組の推進について

・子育てひろば全国連絡協議会 奥山)資料4に基づき説明。昨年の夏ごろから打ち合わせを進め86事例の応募があり、精査の結果、81事例を公表することとなった。うち7事例は大西参与/山本室長/湯浅氏と私の4名で取材を行い記事化した。取材は行っていないが一般向けに公表する

ものとしてパワーポイント形式で19事例、エクセル形式で81事例がある。公表ができないと判断したのも5事例ある。

□孤独・孤立の実態把握に関する全国調査(令和5年)調査結果について

・内閣府 松本)資料5に基づき説明。回答率に関しては55.7%と良好な状況。直接質問(図1)と間接質問(図2)の2つの形式で把握しているが、どちらも令和4年とあまり変わらない結果となった。直接質問(図1)について、強い孤独を感じている割合が5%程度、いわゆる孤独感があるという方は4割程度で、令和3年から令和4年の間では大きく変動があるが、3年間を通じて4割程度の方が孤独感があると見て取れる。年代別(図3)については、20歳代～50歳代で孤独感が「しばしばある・常にある」の値が高い結果となった。令和5年度のデータのみ載せているが、過去3年間を通じて同様の結果が得られている。男女別(図4)に見ると、特に男性は30歳代～50歳代、女性は20歳代～30歳代で孤独感がある方についての高い傾向がでている。現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事(図5・図6)については、令和4年と順番の変更はあるものの、同様の項目が上位に位置している。孤立に関しては令和4年とあまり変化はないが、図7のコミュニケーション頻度に関しては「全くない」という項目は減少傾向にある。「週1回以上」としてと括ると、令和3・4年度に比べると拡大傾向、「ほとんどない」は縮小傾向にあり、コロナが落ち着き直接会話によるコミュニケーションが復活していることが見て取れる。社会活動への参加状況(図8)についても令和4年に比べると「参加している」という数字が増えている。他者へのサポート意識(図10)については、年齢別の結果を見ると比較的若い年代で、他者へのサポートをしようと思うと回答している回答が増加している。今回資料としてつけている調査結果のポイントとは別に調査結果の概要をHPで公開している。ここで孤立の指標を示している。参考資料に関して、仕事に関して数字のみに着目すると学生の孤独感が高いとなっているが誤差もある。「しばしばある・常にある」は正社員のほうが高い。「ときどきある・たまにある」を含めると失業者の孤独感が高いと見て取れる。令和5年度の結果を見る際には仕事に関しては注意が必要。

□その他

・内閣府 堀江)4月1日に孤独・孤立対策推進法が施行された。これに伴い、内閣総理大臣を本部長とする本部が設置され、その第一回会合が近々開催される予定。法律に基づく新たな重点計画の策定が中心となる見込み。

4. 議題

□(1)令和6年度シンポジウムについて

・内閣府 松木)資料6に基づき説明。シンポジウムのスケジュールやテーマ、内容等を幹事会で議論し、実施することとしたい。開催回数としては年に2～3回程度実施を想定。過去のシンポジウムについて、第1回は孤独・孤立の実態把握調査、第2回から第4回は分科会1,2,3に係るテーマで開催、令和5年度は法律施行に関連し、第5回は孤独・孤立対策推進法、第6回は地域協議会を中心にテーマとして取り上げた。昨年度までのシンポジウムのアンケート調査の結果をまとめている。自由記述で今後の取り上げて欲しいテーマ等を書いていただいた。NPOの活動等の良い事例を紹介してほしいといったことや、連携がうまく行かなかった失敗事例も希望する等、様々なテーマの意見を頂戴した。あえて全体的にこのような意見が多いということは示さないが、幹事の皆様には適宜参照いただき活発な議論ができればと考えている。

・あなたのいばしょ 大空)ぜひやっていただきたいことは国際連携について。常に課題としては挙げられているが、なかなか進んでいない分野である。孤独・孤独対策はイギリスから始まり日本で大きく花開いた。昨年から各国で政府レベルでも民間レベルでも取組が進んでおり、我々は国際グループ(Global Initiative on Loneliness and Connection)に加盟している。各国1団体しか入れないが、アジアでは加入しているのは我々だけで他国は入っていない。政府レベルでは孤独・孤立対策が進んでいるが、実際民間レベルでどのようなことをやっているのか、日本に知見があると考えられているが共有してくことが大事であり、海外の事例を参照することも大事になってくるのではと考えている。WHOの動きや国際連携の動き等に取り組んでいただき、海外から日本への期待値が高いということをも日本のステークホルダーにも共有し、先進事例を日本からも出していく感覚を共有いただきたい。最新の海外の知見、各国政府の動きを民間と政府側とで共有する場を作ることも重要だと考えている。海外にも孤独・孤立は目を向けていく必要があると考えているのでどこかでテーマ設定を検討していただきたい。

→内閣府 江浪室長)我が国の取組が国際的に注目を浴びていることは認識している。日本の情報発信が必要ということも認識しているため、言葉の壁を乗り越えながら、民間団体の取組についても発信していきたい。

・社会的包摂サポートセンター 遠藤)今までのシンポジウムで挙げた論点の一つに登壇者のジェンダーバランスがある。「ジェンダーの問題と孤独・孤立の問題」を1つ入れてもらい、女性の方をパネラーすることやセクシャルマイノリティの方を多めにする等、検討いただきたい。

・内閣府 大西参与)これまでの孤独・孤立対策を振り返りつつ、今年度から内閣府へ移管をしたことも踏まえて、総括して今後の孤独・孤立対策を考えてみてはどうか。また実態把握調査も3年間の結果が出たことから、どのような変化が見られるかに焦点を充てることも一案ではないか。

・新公益連盟 井澤)本年度つながりサポーター養成講座が本格始動するため、周知を深めるという観点から、一つテーマになりうるのではと考えている。また昨年度中間支援団体によるモデル調査事業を実施しており、本年度も事業継続することを踏まえ、中間支援団体や取組事例に焦点を充てることも一案ではないか。

・日本NPOセンター 吉田)過去2回シンポジウムへ登壇した所感として、自治体は取組事例こそわかるものの、具体的にどのように動き出せばいいのかという点で困っていると見受けた。特に、地方版PFと地域協議会の棲み分け等。先ほど中間支援団体による取組事例という案も挙げたが、それらも踏まえて、良い事例や情報を発信できると良い。また「官民・民民連携による取組推進」の中にも良い事例がありそうなので深掘りすることも一案ではないか。

→内閣府 江浪室長)法律の施行に伴って、色々な悩みが自治体にあると理解した。先行的な事例に関しても事例を収集していきたい。他方、事例の収集能力にも限界があるので、先進的な事例等をこのような機会に情報提供をしていただきたい。

→日本NPOセンター 吉田)奥山さんがご報告していただいたものに関して、面白いものが埋まっていそうなのでどこかで紹介できたらと感じている。溜めてきた知見をお互いに共有できる場になればと考えている。

以上

第19回 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 幹事会(オンライン)参加団体

団体名	出席者 (⇒代理出席又は欠席)	幹事会 へ一任
全国社会福祉協議会	村木 厚子(むらき・あつこ)会長 ⇒代理出席 高橋良太 地域福祉部長	—
全国社会福祉法人経営者協議会	磯 彰格(いそ・あきただ)会長 ⇒代理出席 宮内良樹 法人振興部副部長	—
認定NPO法人日本NPOセンター	吉田 建治(よしだ・けんじ)事務局長	—
NPO法人新公益連盟	白井 智子(しらい・ともこ)代表理事 ⇒代理出席 井澤徹 孤独・孤立担当 堀内美穂 事務局次長	—
NPO法人あなたのいばしょ (SNS相談コンソーシアム)	大空 幸星(おおぞら・こうき)理事長 鈴木ひかり 広報チーム長	—
NPO法人自殺対策支援センターライフリンク	清水 康之(しみず・やすゆき)代表 ⇒代理出席 根岸親 副代表	—
一般社団法人 日本いのちの電話連盟	堀井 茂男(ほりい・しげお)理事長	—
一般社団法人 社会的包摂サポートセンター (よりそいホットライン)	遠藤 智子(えんどう・ともこ)事務局長	—
一般社団法人 生活困窮者自立支援全国ネットワーク	奥田 知志(おくた・ともし)共同代表 ⇒欠席	—
認定NPO法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ	湯浅 誠(ゆあさ・まこと)理事長 ⇒代理出席 西川紗祐未 孤独・孤立対策担当	—
一般社団法人 全国フードバンク推進協議会	米山 広明(よねやま・ひろあき)代表理事	—
認定 NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ (シングルマザーサポート団体全国協議会)	赤石 千衣子(あかいし・ちえこ)理事長	—
NPO法人全国女性シェルターネット	北仲 千里(きたなか・ちさと)共同代表	—
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会	奥山 千鶴子(おくやま・ちづこ)理事長	—